キラリ天草人

与一ヶ浦獅子舞会（御所浦町）

島民の笑顔と島のにぎわいのために

11月中旬、毎年旧暦の9月25日を過ぎた最初の日曜日に与一ヶ浦地区で行われている秋祭り。この祭りで獅子舞の演舞を披露しているのが「与一ヶ浦獅子舞会」だ。

同会が発足したのは今から33年前。3代目と現6代目の会長を務める山本勇人（はやと）さんらが、当時行事などが特に無かった与一ヶ浦地区を何とかして盛り上げようと話したことをきっかけに、賛同してくれる仲間を集めるところから始まった。仲間が集まり獅子舞をすることが決まった後は、みんなで資金を出し合い、苓北町の太鼓制作会社に獅子と太鼓、曲の制作を依頼。当初は、同社の太鼓の指導者に週2回島に来てもらい、踊りや太鼓を教えてもらってみんなで覚えたそうだ。

現在の会員数は26人だが、祭りの際には島外に住んでいるOBなども協力してくれるため、運営は発足当初とあまり変わらない30人ほどで行うことができている。また、当初大人が叩いていた太鼓は地元の小学生が受け継ぎ、大人の獅子振りと一緒に祭りを盛り上げてくれている。ともに本番に向け、40日前から週2回、獅子振りの動きや太鼓の叩き方などを繰り返し練習している。

祭り当日は、朝7時から昼過ぎまで地区内の80軒ほどある家を〝悪魔退散〟〝家内安全〟〝商売繁盛〟の願いを込め、一軒一軒回っている。その後、祭り会場で子どもたちの太鼓や玉振りとともに獅子舞の演舞を披露。祭りの最後には地元業者から寄附された樽酒を見物客全員にお神酒（みき）として振る舞っているそうだ。

この祭りでは、バザーや地元業者の協賛による豪華景品が当たる宝くじ抽選会なども行われ、与一ヶ浦地区で一番にぎわう行事となっている。

「島の人たちは獅子舞の演舞を含め、秋祭りを毎回〝良かった〟と言って喜んでくれる。祭りの段取りや準備など大変なことも多いが、島の人たちに喜んでもらえることが一番」と話す山本さん。島民の笑顔と島のにぎわいを絶やさないよう、同会は今後も活動を続けていく。

▲子どもの玉振りに合わせて躍動する獅子舞

curator's recommendation

学芸員のイチオシ

御所浦白亜紀資料館
廣瀬 浩司

天草市には、考古学や古生物学などの専門的知識を持つ学芸員がいます。その学芸員が、天草の歴史や自然などに関する〝イチオシ〟を紹介します。

Vol. 010 国内最大級の肉食恐竜の歯化石（御所浦町）

▲発見された国内最大級の肉食恐竜の歯化石

◀歯化石が発見された「白亜紀の壁」（御所浦町）

いよいよ3月20日に「御所浦恐竜の島博物館」がオープンし、天草で見つかっているさまざまな化石が一堂に展示されます。その中でも注目してほしい化石の一つが、国内最大級の肉食恐竜（獣脚類（じゅうきゃくるい））の歯化石です。

平成9年3月、旧御所浦町から調査依頼を受けた高知大学の研究グループが、天草初となる恐竜化石を御所浦島で発見。その翌日、採石場（通称・白亜紀の壁）に場所を変えて行った調査で見つかったのがこの歯の化石です。当初は、そのほとんどが岩石に埋もれ、断面が一部だけしか見えていない状態でしたが、その後、室内に運び込み、周りの岩石を取り除くクリーニングという作業を行い、現在のような全体が分かる状態となりました。

先端は大きく欠け、化石として残されている歯の長さは6.4cmですが、本来は10cmほどであったと推定されます。この歯を持つ肉食恐竜は体長10mを超えていたとみられ、国内最大級のものです。歯の縁のギザギザとした形状やレンズ状の断面といった特徴から、アロサウルスやアクロカントサウルスなどと同じカルノサウルス類の恐竜だと考えられます。

天草 見どころ図鑑

瀬戸金毘羅宮（志柿町）

天草瀬戸大橋を下島から上島に渡るとき、正面の山に見える赤い鳥居。1817年に建立され、航海の安全・豊漁の神様である金毘羅さまがまつられています。

高台となるこの場所は、天草瀬戸大橋をはじめ、瀬戸歩道橋、1年前に開通した天草未来大橋を近くから眺めることができる絶好のポイントです。旧瀬戸小学校体育館駐車場そばをスタート・ゴールとする約3.5kmの遊歩道も整備されており、軽い登山としても楽しめます。

★ここに注目

遊歩道の道中やさくら広場休憩所には桜が植えられ、春には花見も楽しめます。